



流域治水

令和8年2月16日
九州地方整備局
延岡河川国道事務所

記者発表資料

五ヶ瀬川水系内外水統合型の
多段階浸水想定図・水害リスクマップを公表
～流域治水の取り組みを更に推進～

土地利用や住まい方の工夫、水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討及び企業の立地選択など、流域治水の取組を推進することを目的として、五ヶ瀬川の国管理区間からの氾濫のほか、支川からの氾濫や下水道等からの内水氾濫を考慮した「五ヶ瀬川水系内外水統合型の多段階浸水想定図※1・水害リスクマップ※2」を公表します。

※1 多段階浸水図

- ・想定最大規模に加え、より頻度の高い複数の降雨規模ごと（年超過確率 1/10、1/30、1/50、1/100）に作成した浸水想定図のこと

※2 水害リスクマップ

- ・多段階の浸水想定図を用いて、降雨規模ごとの浸水範囲を浸水深ごと（0.0m以上、0.5m以上（床上浸水相当以上）、3.0m以上（1階居室浸水相当以上））に重ね合わせて作成した図面のこと

○五ヶ瀬川水系内外水統合型の多段階浸水想定図・水害リスクマップについては、こちらに掲載しています。

URL : <https://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/bousai/>

○同時に、宮崎河川国道事務所において大淀川水系、小丸川水系のリスクマップを公表しています。

【問い合わせ先】

国土交通省 延岡河川国道事務所 技術副所長

つつみ ひろのり

堤 宏徳

のむら ひでのぶ

流域治水課長 野村 英伸

電話 : 0982-31-1155 (代表)

0982-31-1191 (流域治水課直通)

いのちとくらしをまもる
防 災 減 災教訓に学び地域で備える
みんなでまもるプロジェクト

五ヶ瀬川水系流域治水対策プロジェクト

～地域をみずからまもる。水害に強い地域づくりのためのハード・ソフト対策の推進～

多段階浸水想定図・水害リスクマップについて

○これまで水防法に基づき住民等の迅速かつ円滑な避難に資する水害リスク情報として、想定最大規模降雨を対象とした「洪水浸水想定区域図」を作成、公表してきました。（五ヶ瀬川：H28.8.30公表）

○これに加えて、土地利用や住まい方の工夫の検討、水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討など、流域治水の取組を推進することを目的として、発生頻度が高い降雨規模の場合に想定される浸水範囲や浸水深を明らかにするため、令和4年に国管理河川からの外水氾濫を対象とした「多段階浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を作成、公表してきました。五ヶ瀬川：R4.4.27公表）

【多段階浸水想定図（外水氾濫）※】

※国管理河川からの氾濫

想定最大規模に加え、高頻度から中頻度で発生する降雨規模ごとに作成した浸水想定図

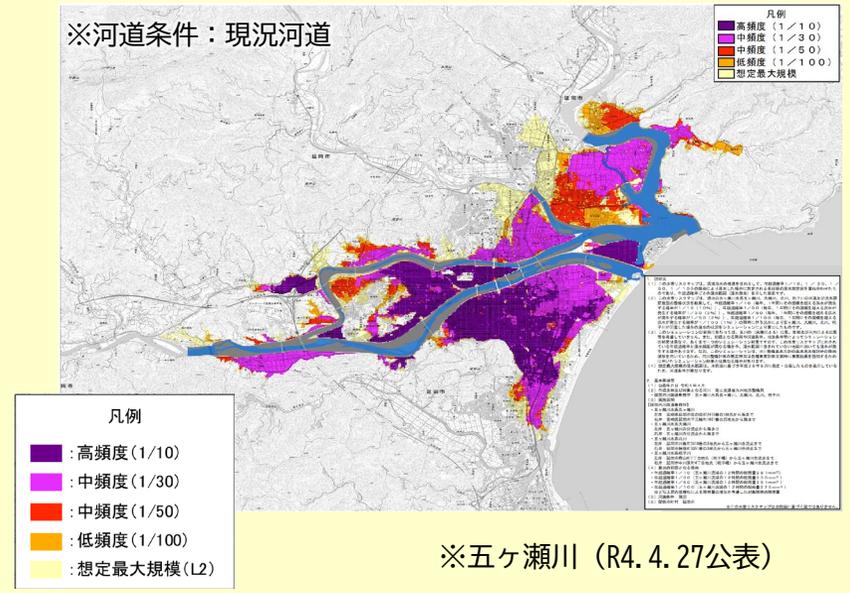


重ね合わせ

【水害リスクマップ（外水氾濫）※】

※国管理河川からの氾濫

多段階浸水想定図を用いて、降雨規模ごとの浸水範囲を浸水深ごと（0m以上、0.5m以上（床上浸水）、3.0m以上（1階居室浸水））に重ね合わせた図面



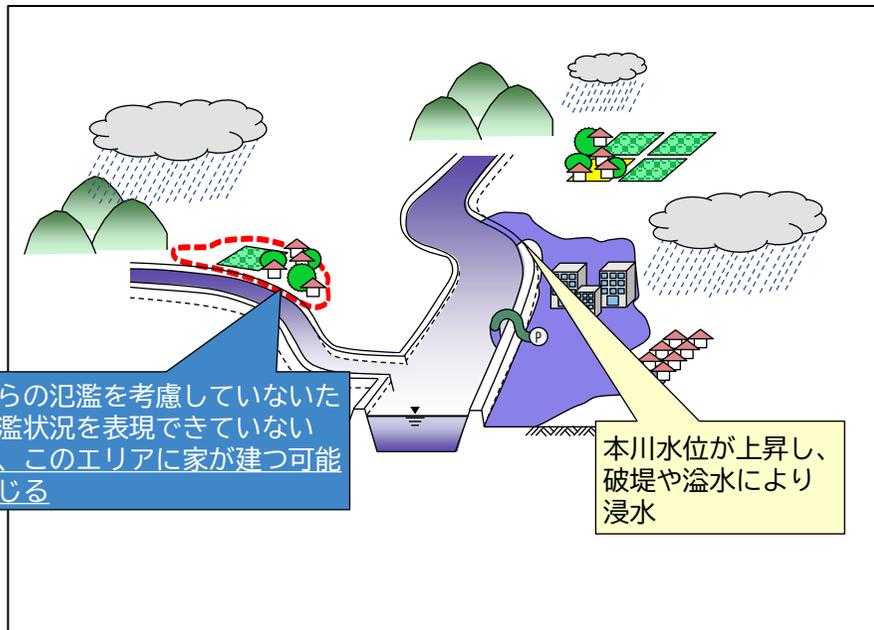
多段階浸水想定図・水害リスクマップについて

○前頁の洪水浸水想定区域図（五ヶ瀬川：H28. 8. 30公表）や国管理河川からの外水氾濫を対象とした「多段階浸水想定図」及び「水害リスクマップ」（五ヶ瀬川：R4. 4. 27公表）は、主要河川（本川）からの外水氾濫のみを対象としていますが、高頻度、中高頻度の外力に対しては、本川氾濫に先んじて内水氾濫、支川氾濫が生じる可能性が高いため、特に高頻度、中高頻度のリスクを表現できていない可能性があります。

○そこで今回、支川氾濫や内水氾濫も考慮した内外水統合型の水害リスクマップを作成しました。

R4. 4. 27公表

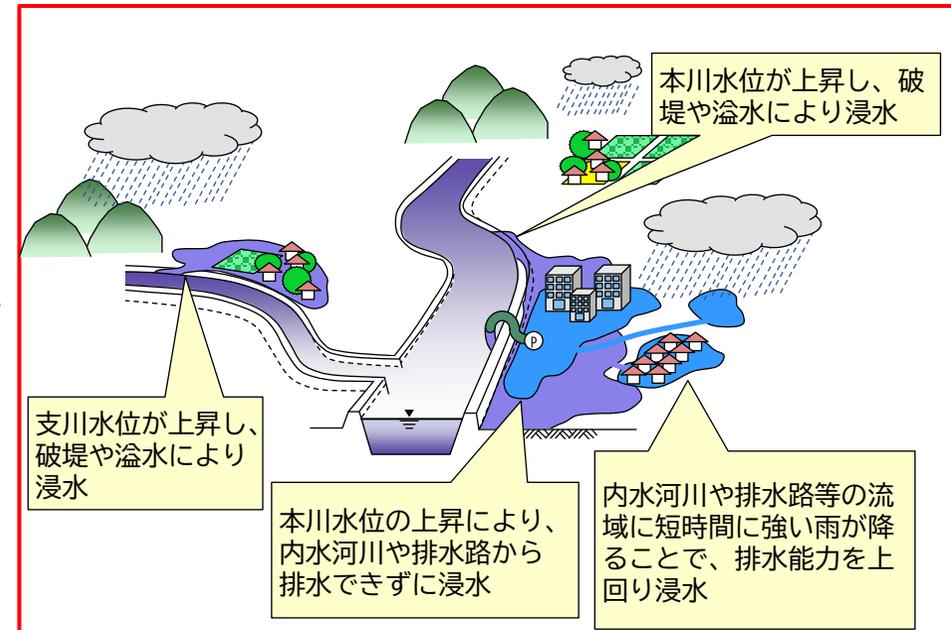
<外水氾濫のみ>



主要河川の外水氾濫を対象とした
氾濫解析のイメージ

今回公表

<内・外水一体型氾濫>



内外水統合型の
氾濫解析イメージ

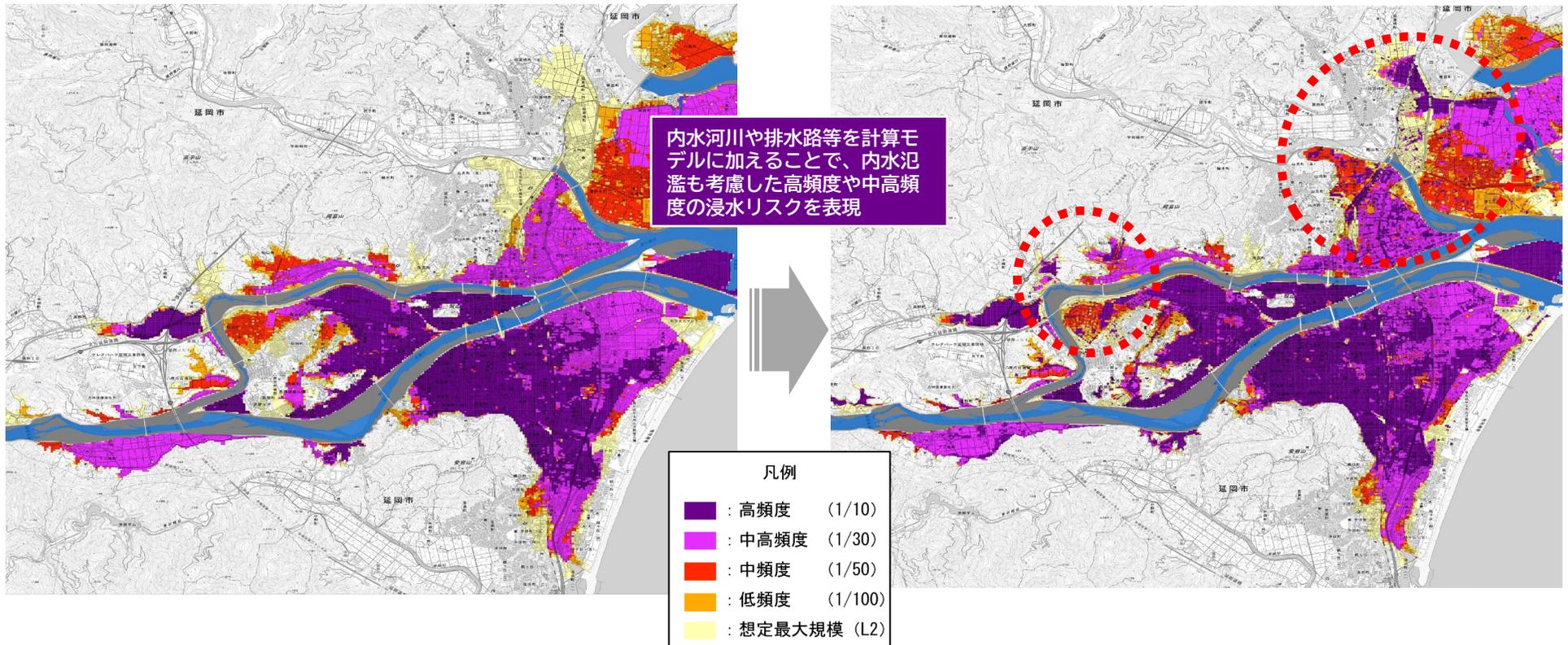
内外水統合型水害リスクマップについて

○今回公表する「内外水統合型水害リスクマップ」は、前頁で示した国管理河川からの外水氾濫に加えて内水氾濫による浸水リスクを一体的に表現したものです。

○外水（本川）と内水（支川、下水道等）の氾濫状況を一体で示すことにより、高頻度、中高頻度においても内水氾濫も含めた氾濫状況を表現することができ、浸水実態に即した避難計画や防災まちづくりの検討への活用が期待されます。

R4公表：外水の水害リスクマップ

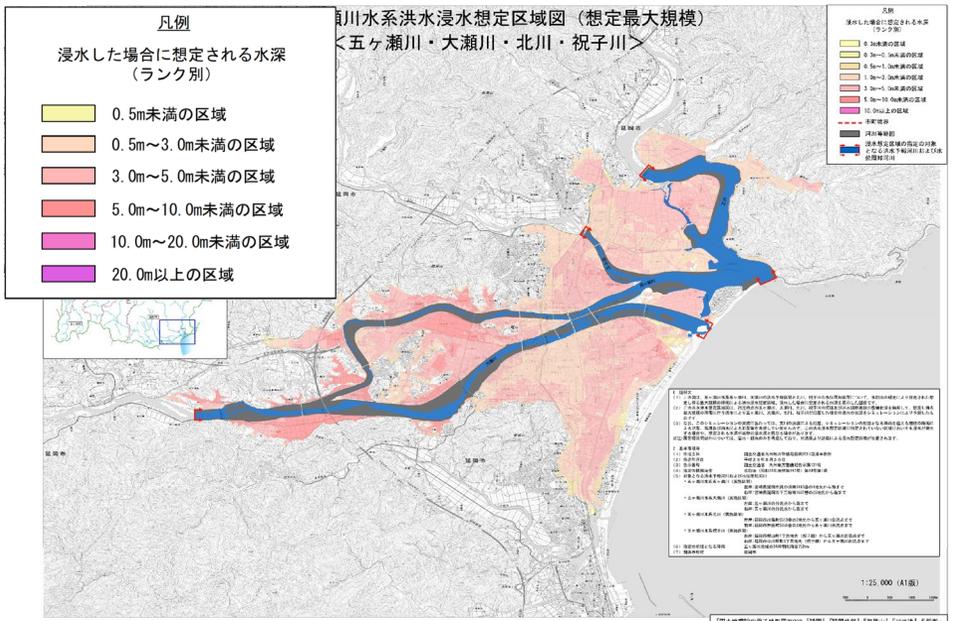
今回公表：内外水統合型水害リスクマップ



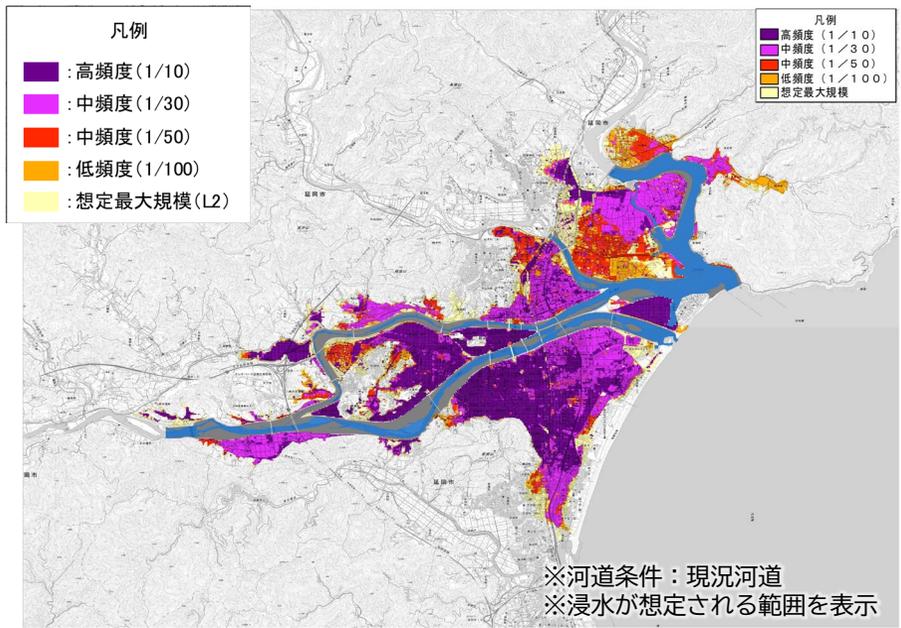
外水の水害リスクマップと内外水統合型水害リスクマップの比較
(浸水範囲：浸水が想定される範囲を表示)

(参考) 洪水浸水想定区域図と水害リスクマップの違い

	洪水浸水想定区域図	水害リスクマップ (浸水頻度図)
表す情報	浸水範囲、浸水深 (m)	浸水範囲、浸水頻度
主な用途	避難行動	防災まちづくり、企業立地選択等
降雨条件	想定される最大規模の降雨	発生頻度の異なる降雨



洪水浸水想定区域図 ※五ヶ瀬川 (H28.3.30公表)



水害リスクマップ ※五ヶ瀬川 (今回公表)

※河道条件: 現況河道
※浸水が想定される範囲を表示

○洪水浸水想定区域図は、最悪の事態を想定して命を守るという観点から、避難が必要となる場所と安全な場所を把握することを目的としています。

○水害リスクマップでは、降雨の発生確率ごとの浸水範囲を表示することで、**中小規模の洪水でも比較的浸水しやすい場所が把握できます。**

(参考) 水害リスクマップの見方・活用例

3つの図を並べて見比べる

【土地利用や住まい方の工夫に利用する場合】

居住スペースや1階をピロティ構造にするなど、建築構造の参考にするなどの活用が考えられます。

【企業立地選択等に利用する場合】

浸水頻度の高い場所への施設の立地を避けるほか、浸水確率を踏まえて事業継続に必要な資機材を2階以上に移動する、止水壁を設置するといった対策の検討に活用することが考えられます。

【水災害リスクを踏まえたまちづくり・避難所設置に利用する場合】

立地適正化計画における防災指針の検討・作成への活用などが考えられます。

